

2018 年上期の訪日外国人消費

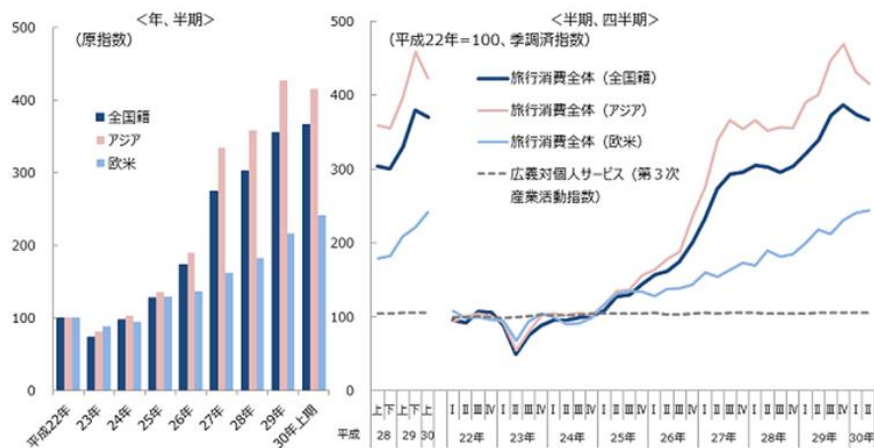
訪日外国人消費が 3 半期ぶりに低下 要因は？

経済産業省が訪日外国人の消費金額を、消費者物価指数を用いて実質指数化し、訪日外国人の国内での費目別の旅行消費の動向を指標化した訪日外国人消費指数(TCI)。このデータをもとに 3 半期ぶりに低下した訪日外国人消費について、アジアと欧米、どちらが大きく影響したのか分析した「ひと言解説」記事を 10 月 2 日発表しています。

2018 年上期の訪日外国人全体の指数は、季調済指数値で 370.1、前期比(対 2017 年下期比)マイナス 2.5%と 3 期ぶりの低下でした。これを地域別にみると、アジアの指数値は 423.1、前期比マイナス 7.6%と 3 期ぶりの低下でしたが、欧米の指数値は 242.1、前期比 9.2%と 8 期連続上昇です。訪日外国人全体の 2018 年上期の指数値は、昨年平均値をかううじて上回りましたが、アジアの指数値は、昨年平均値を下回り、対照的に、欧米指数は順調に水準を上げ、当期も引き続き安定した動きをみせています。2018 年上期の訪日外国人全体の旅行消費は、アジアからの訪日外国人観光客の消費活動の鈍さからマイナスとなりましたが、そのマイナス幅は、欧米からの訪日外国人観光客の消費活動の好調さによって多少緩和された、という形です。(参照※1、グラフ a)

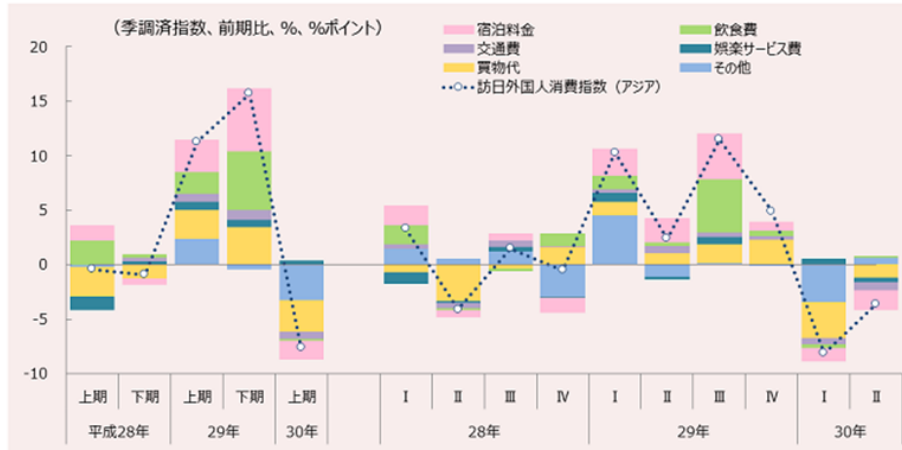
費目別の寄与度をみてみると、アジア全体の前期比マイナス 7.6%に対し、「その他」がマイナス 3.29%ポイント、買物代がマイナス 2.87%ポイントと、両方で低下寄与の大部分を占めています。当期は 6 費目のうち唯一、娯楽サービス費だけがプラス寄与でした。2017 年は通年ではほとんどの費目がプラス寄与と好調でしたが、2018 年上期では、多くの費目でその勢いが持続しませんでした。欧米指数をみると、欧米全体の 9.2%上昇に対し、飲食費が 7.23%ポイントと、非常に大きなプラス寄与となりました。欧米の飲食費は 2013 年上期以降、11 半期連続のプラス寄与をみせていますが、当期は、その好調さを更に強めたように見られます。2018 年上期は訪日外国人全体の費目別指数でも飲食費の伸びが際立っていましたが、これは、欧米指数の飲食費の伸びのおかげだったというわけです。(参照※1、グラフ b、グラフ c)

グラフ a 訪日外国人消費指数の動向（全体、アジア、欧米）



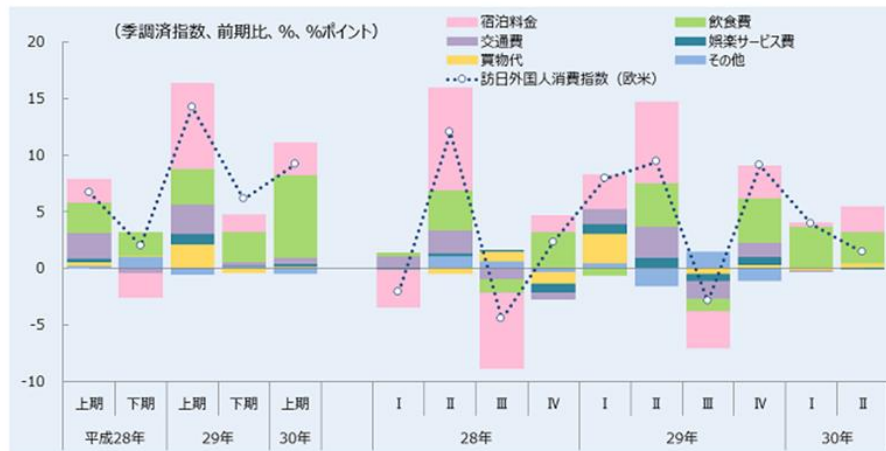
(資料) 訪日外国人消費指数：訪日外国人消費動向調査（観光庁）、訪日外客数（日本政府観光局）、消費者物価指数（総務省）などを用いて試算。

グラフb 費目別寄与度（前期比）（アジア）



(資料) 訪日外国人消費指数：訪日外国人消費動向調査（観光庁）、訪日外客数（日本政府観光局）、消費者物価指数（総務省）などを用いて試算。

グラフc 費目別寄与度（前期比）（欧米）



(資料) 訪日外国人消費指数：訪日外国人消費動向調査（観光庁）、訪日外客数（日本政府観光局）、消費者物価指数（総務省）などを用いて試算。

※1 TCI 地域別指数のご紹介 | 経済産業省

http://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikaisetsu/hitokoto_kako/20181002hitokoto.html